

まちづくりがわかる本

浦安のまちを読む
浦安まちブックをつくる会編著

まちづくり がわかる本

浦安まちブックをつくる会編著



彰国社

日本都市計画学会石川奨励賞受賞

日本都市計画学会石川奨励賞受賞!

まちづくりの

扉をあけるのは

あなたです。

中学生から読める市民のためのまちブック

この本を読んで
あなたのまちの大発見

あすのまちづくりが見えてくる

この本は専門家市民+一般市民+教育関係者+学生等で作りました

まちの災害への備え

第11章 防災と まちづくり



まちづくりを考えるときに、そのまちではどのような災害が起こる可能性があるか、そのためにあらかじめどのような対策をたてておかなければならないか、を考えることはとても大切なことです。浦安は埋め立て地を中心としたまちで地盤がとても悪いので、わたしたちがいちばん考えておかなければならない災害は大地震です。ここでは、阪神・淡路大震災の例などを参考に、大地震におそれたら浦安はどうなるか、そのためにどんなまちづくりが必要かを考えてみましょう。

大地震で 浦安は どうなるか

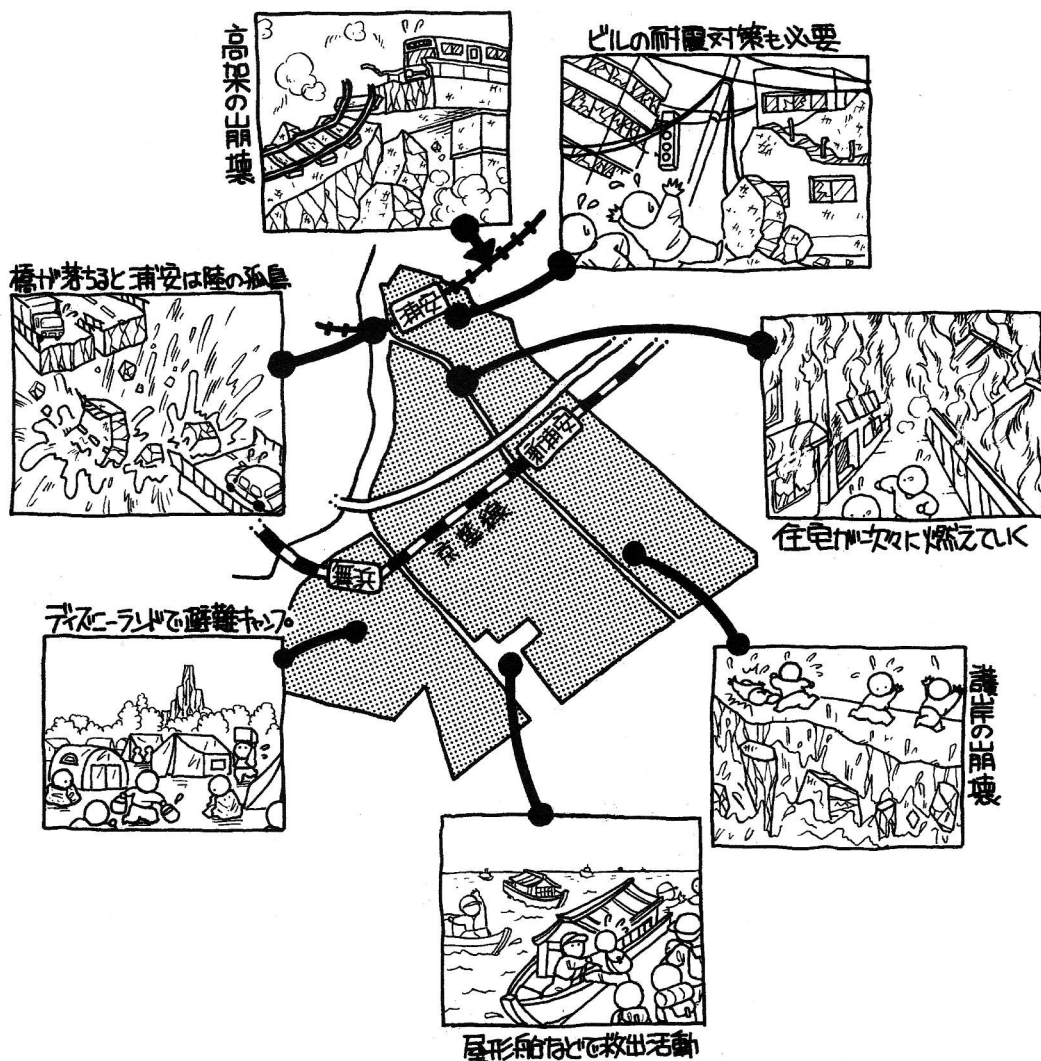
大地震が起きたとき、浦安ではどんなことが起こるのでしょうか。

■建物が壊れる！

阪神・淡路大震災では、住宅、ビルなどたくさんの建物が壊れました。古い木造住宅、1階部分が車庫やショーウィンドーになっている建物などには、とくに大きな被害が見られました。また、鉄筋コンクリート造や鉄骨造のビルでも、壁の量が少なかったり壁の位置が片寄っていたりしたものは、同じように大きな被害を受けていました。

このような建物は元町地区を中心に浦安にもたくさんあります。大地震に襲われれば、同じようにつぶれたり、傾いたりして大きな被害が出るでしょう★注1。

大地震時に起こりうること



地震で建物がつぶれると、中にいる人が亡くなったり、けがをしますし、火を使っているところに建物が崩れてくれば火災になってしまいます。建物がつぶれなくても、中にある家具などが倒れたり、落ちてきたりすれば同じように危険です。

また、建物の外側も、看板やネオンサイン、壊れた窓ガラスなどが落下し、電柱やブロック塀、自動販売機などが軒なみ倒れ、電線や電話線がたれ下がってとても危険な状態になるでしょう。

■まちが燃える！

大地震に火災はつきものです。火を使っているところに燃えやすいものが倒れてきたり、落ちてきたりすれば、当然火災になってしまいます★注2。

大地震に襲われた場合は、消防隊がすぐに駆けつけることはむずかしくなります。このため、火災が発生したら、自分で消火するか、付近にいる人びとが力を合わせて消火するしかないのですが、なかには消火できないで燃え広がる火災もあるにちがいありません。

古い木造住宅が密集し道路も狭い元町地区の一部などでは、火災の初期のうちに消火できない場合には、つぎつぎに延焼★注3し、多数の住宅や建物が炎上してしまう可能性が高いと考えておかなければなりません★注4。

一方、耐火構造★注5の共同住宅のような場合には、一つの住戸で火災が発生しても、隣



★注1 浦安市が公式に防災対策をまとめた「浦安市地域防災計画」（以降、防災計画）では、マグニチュード（M）7.2の直下型（阪神・淡路大震災を引き起こした兵庫県南部地震と同程度）の地震に襲われた場合、全市の木造建物の約10%が全壊し、20%が半壊するとしています。また、鉄筋コンクリート造や鉄骨造などの建物の場合は、全壊率は約5%、半壊率は約10%とされています。

★注2 防災計画の基礎調査資料を使って計算すると、冬の夕食時という条件では、地震後に発生する火災は150～160件にもなります。

★注3 隣の建物などに燃え移ること、燃え広がること。

★注4 防災計画では、地震にともなって発生した火災により、元町地区を中心に500戸あまりの建物が燃えてしまうとしています。

★注5 鉄筋コンクリートなどでできている火災に強い建物をいいます。

阪神・淡路大震災で壊れた住宅

